

水系2液超耐候・超低汚染型変性無機塗料（艶消タイプ）

ダイヤスーパーセラニ G4

水系2液超耐候・超低汚染型変性無機塗料

艶消
タイプ

F☆☆☆☆

ダイヤスーパーセラニ G4

艶消仕上

可とう性

超耐候性

超低汚染性

透湿性

防カビ・防藻性

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023.6月現在 | 23.06.2000 SJ

シーカ・ジャパン株式会社

東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F TEL. 03-6434-7291

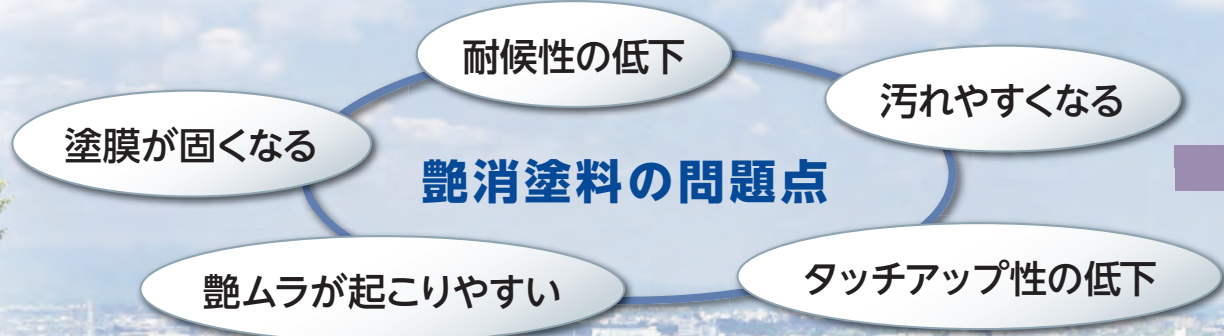
BUILDING TRUST



BUILDING TRUST



一般的な艶消塗料の問題点 (艶有塗料との比較)



ダイヤスーパーセラ G4 の優れた特長により
艶消塗料の問題点を大幅に改善しました！

艶消塗料に 当社独自の 無機の技術 を導入しました。

新技術
無機複合コアシェル構造

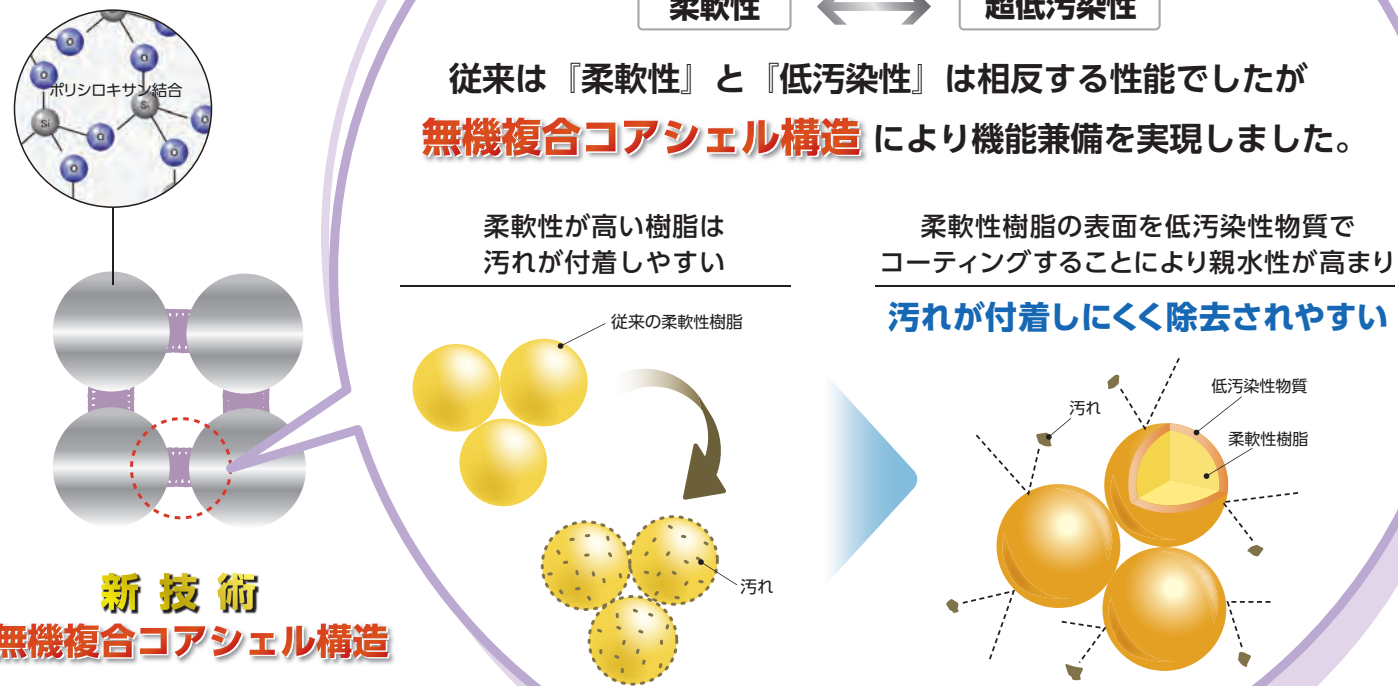
柔軟性 ↔ 超低汚染性

従来は『柔軟性』と『低汚染性』は相反する性能でしたが
無機複合コアシェル構造により機能兼備を実現しました。

柔軟性が高い樹脂は
汚れが付着しやすい

柔軟性樹脂の表面を低汚染性物質で
コーティングすることにより親水性が高まり

汚れが付着しにくく除去されやすい



新技術
無機複合コアシェル構造

特長
1

艶消仕上

鏡面光沢度4%の艶により 上品な仕上りを演出します。

風景と調和する高級感のある仕上りが特長です。 ※当社の基準では鏡面光沢度10%以下を艶消塗料としています。

Point!

落ち着いたあるナチュラルな仕上りを愉しまたい方にお勧めです。

特長
2

可とう性

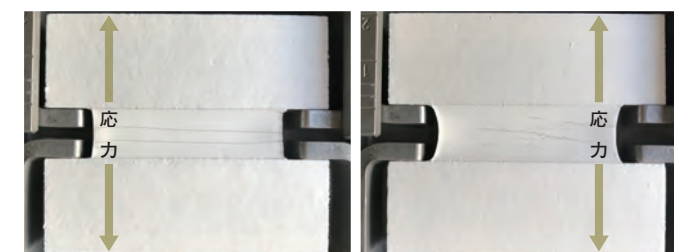
可とう性に優れた塗膜によりシーリング上に施工した場合の
ひび割れリスクを軽減します。

柔らかいシーリングの上に塗られた塗膜は下地の動きによりひび割れが発生しやすい状況に
あります。ダイヤスーパーセラG4は艶消塗料でありながら可とう性に優れた塗膜です。

Point!

シーリング上に施工した場合、従来の艶消塗料に比べ
塗膜のひび割れを軽減することができます。

伸長時ひび割れ試験



従来の水性無機塗料 (艶消)

スーパーセラ G4

当社製品名	伸び率
スーパーセラ G4	35%
水性無機塗料 (艶消)	11%

当社比

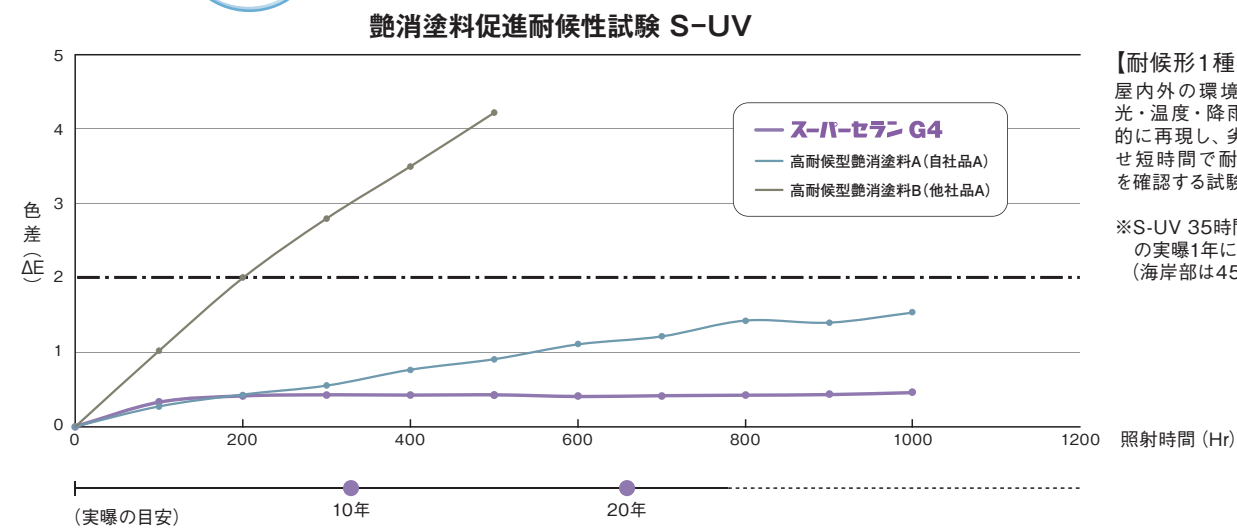
※弊社シーリング材での試験による

特長 3 超耐候性

変性無機塗料の持つ最大の特長、優れた耐候性が建物の美観を長期にわたり維持し、保護します。

蓄熱性の高い部材は塗料の劣化を早めますので特に耐候性の高い塗料を推奨します。

Point! 艶消塗料でありながら耐候性に優れ、変色しにくい塗膜です。



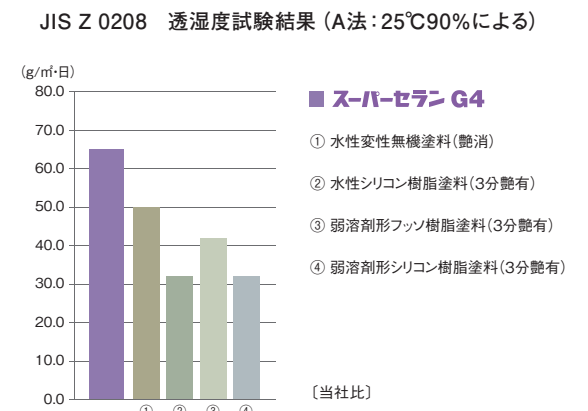
特長 5 透湿性

各種上塗材の中では最高クラスの透湿性を発揮します。

透湿性の高い塗料は、雨などの水滴は通さずに、水蒸気を逃がす性質を持ちます。この性質により、熱膨れの原因となる水分を効率的に排出することができます。

※ 水滴 … 直径100~300μm 水蒸気 … 直径0.0004μm

Point! 窯業系サイディングやALCパネルなどの蓄熱性の高い部材を用いた建物の塗替えに最適です。

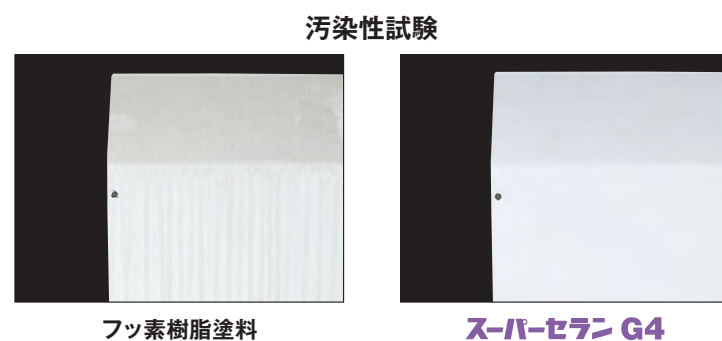


特長 4 超低汚染性

親水性の高い無機の塗膜が汚染物質を寄せ付けず、雨水で汚れを落とす特性を持ちます。

無機の塗膜により、親水性の向上（雨水で汚れが落ちやすくなる）と帯電性の低下（静電気を帯びにくくすることで埃を引き寄せにくくする）を実現しました。

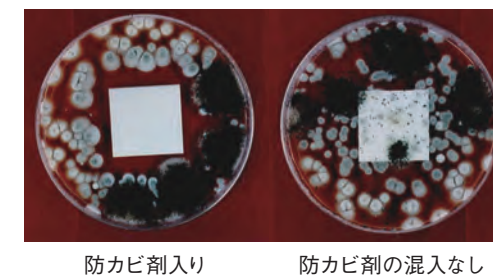
Point! 可とう性の塗料でありながらフッ素樹脂塗料をしのご超低汚染性を実現しました。【従来の変性無機塗料（艶消）と同レベル】



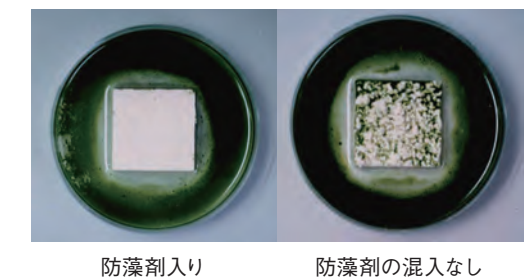
特長 6 防カビ・防藻性

防カビ・防藻材の添加により、カビや藻の発生を抑制します。

防カビ試験 (JIS Z 2911)



防藻試験



標準仕様

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整							
2	下塗材	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.15kg/㎡ 100~150㎡/缶	1	—	2時間以上	中毛ローラー 刷毛、エアレス
3	上塗材	ダイヤスーパーセラ G4 A液 B液 清 水 刷毛・ローラー エアレス	16kg 1kg 0~0.8 ^{リットル} 0.5~1.2 ^{リットル}	0.2~0.3kg/㎡ 57~85㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。

塗替え仕様（ALC下地 推奨仕様）

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整							
2	下塗材	ダイヤセラ・トーチツプラス 清 水	16kg 1.6~2.4 ^{リットル}	0.3~0.5kg/㎡ 32~53㎡/缶	1	—	5時間以上	中毛ローラー
	下塗材	ダイヤセラ・トーチツプラス 清 水	16kg 0.5~0.8 ^{リットル}	0.6~0.7kg/㎡ 22~26㎡/缶	1	—	16時間以上	多孔質ローラー
3	上塗材	ダイヤスーパーセラ G4 A液 B液 清 水 刷毛・ローラー エアレス	16kg 1kg 0~0.8 ^{リットル} 0.5~1.2 ^{リットル}	0.25~0.35kg/㎡ 49~68㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。 ※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。
※既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、ダイヤガンコシーラーマイルドまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

塗替え仕様（窯業系サイディング下地 推奨仕様）

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整							
2	下塗材	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.15kg/㎡ 100~150㎡/缶	1	—	2時間以上	中毛ローラー 刷毛、エアレス
3	上塗材	ダイヤスーパーセラ G4 A液 B液 清 水 刷毛・ローラー エアレス	16kg 1kg 0~0.8 ^{リットル} 0.5~1.2 ^{リットル}	0.25~0.35kg/㎡ 49~68㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。

塗替え仕様（コンクリート・モルタル下地 推奨仕様）

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整							
2	下塗材	ダイヤアクリスエポ 清 水	16kg 0.8~1.6 ^{リットル}	0.3~0.5kg/㎡ 32~53㎡/缶	1	—	16時間以上	中毛ローラー
	下塗材	ダイヤアクリスエポ 清 水	16kg 0.4~1.0 ^{リットル}	0.8~1.0kg/㎡ 16~20㎡/缶	1	—	16時間以上	多孔質ローラー
3	上塗材	ダイヤスーパーセラ G4 A液 B液 清 水 刷毛・ローラー エアレス	16kg 1kg 0~0.8 ^{リットル} 0.5~1.6 ^{リットル}	0.25~0.35kg/㎡ 49~68㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。 ※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。
※既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、ダイヤガンコシーラーマイルドまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
※ダイヤスーパーセラ G4は「ダイヤアクリスファイラーダンセイ」及び防水形復層塗材Eの上塗材には使用できません。

可使時間

気温	可使時間	塗装間隔時間（工程内）
5~15℃	10時間以内	4時間~7日
15~25℃	8時間以内	2時間~7日
25~35℃	6時間以内	2時間~7日

適用下地

- コンクリート面 ●モルタル面 ●ALC面
- 窯業系サイディングボード面及び各種塗膜面

[シリコン・フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。]

施工・保管上の注意点

- 【塗膜面の調整（新設）】
- ①素地に付着している塵、汚れ、油類、レイタンス等を完全に除去して下さい。
 - ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
 - ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 - ④PC/PA系、現場打ちコンクリートの場合
 - ①豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
 - ②表面が緻密でレイタンス層がある場合は、レイタンスを除去し、ダイヤガンコシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用して下さい。
- ⑤ALCパネルの場合はダイヤカチオンファイラーを塗布して下さい。
- 【塗膜面の調整（改修）】
- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
 - ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
 - ③各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行って下さい。
 - ④脆弱層が厚い場合は、取り除いてから施工して下さい。
 - ⑤チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 - ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
 - ③B液は湿気硬化性のため、使用後は必ず密栓し、水分が混入しないように保管して下さい。
 - ④B液は危険物ですので、火気や換気には十分注意して保管して下さい。
- 【施工】
- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後は、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
 - ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ③材料は付着乾燥しずとれませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと剥がれ残りとなります。
 - ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 - ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
 - ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 - ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
 - ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
 - ⑨本施工に入る前に試験塗料を行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
 - ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合は少なめに希釈して下さい。
 - ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
 - ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
 - ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 - ⑭塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
 - ⑮フッ素や無機系などの再接着塗料処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
 - ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
 - ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
 - ⑱乾燥時間は、温度、湿度および、風等により差異が生じます。
 - ⑲濃色や藍色に近い色の場合、置くことで色が変れる場合があります。
 - ⑳下地の吸込みムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
 - ㉑シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
 - ㉒上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
 - ㉓既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後にはダイヤガンコシーラーまたはダイヤアクリスエポを塗布して下さい。
 - ㉔B液は水系のA液と混ぜにくいので、必ず電動攪拌機等により混合して下さい。手動で軽く攪拌しただけでは硬化不良となり、艶が発現しない場合がありますので注意して下さい。
 - ㉕小出し調合する場合は、混合比のずれが生じないよう、必ず台秤・皿電子天秤等を用い、重量比の配合割合は厳守して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ㉖施工後、塗膜が乾燥するまでに、降雨などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
 - ㉗予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗膜が濡れないよう対策を講じて下さい。
 - ㉘施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨掛りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が発現しないことがあります。
 - ㉙シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビ汁などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ㉚上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ㉛塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などにより吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐洗性、低汚染機能が発揮されません。
 - ㉜A液とB液は指定の割合で調合し、電動攪拌機を用い十分に混合（2分以上）して下さい。
 - ㉝A液とB液の混合比率が不適切であったり、B液を調合してなかった場合は、低汚染機能が発現しません。
 - ㉞タッチアップに使用する場合は、上塗のA液、B液の缶を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量調合し、電動攪拌機を用い同様に混合し使用して下さい。
 - ㉟A液とB液の混合後は可使時間以内に使用して下さい。可使時間を超えて使用した場合、作業性や仕上り、汚染機能が発現しない場合があります。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 - ②取扱いは、手洗い及びうがいをして十分に行って下さい。
 - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 - ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
 - ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑧中身を使い切ってから廃棄して下さい。
 - ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
 - ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
 - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認下さい。施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート（SDS）をご確認下さい。